

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第79版

理念と実践で
絆を結びます

枠にとらわれない

先日、鹿児島県の園長会の研修で数名の先生方が東京の実践園を見学に来られました。その際、4名の先生方から「最終日に少し時間があるのでカグヤさんの会社を見学させてもらえませんか」とのお声をいただきました。日頃からその先生方の園は他の実践園を見学しては、丸ごと真似(学ぶ)ことを大切にされています。保育にとどまらず、カグヤという企業の実践もまたご自分たちで体感して学び、園に活かしていることとお互いに活かしていることと嬉しく、また感動し「一緒に学ばせていただき気持ちで見学に来ていただきました。」

もともと先生方の園とは、見守る保育の実践を深めるために、私たちも一緒に取り組ませていただいているパートナーの園様です。各園の現場の先生方には「円対話」という実



一緒に円対話を行い実践を分かち合いました

践を行っていただいています。今回はカグヤ社内で行う円対話にも参加していただきました。日頃は園の違う先生方業種の違う私たちでしたが園の違いや業種の違いという壁はそこにはなく、皆がオープンになって初心を思い返したり、お互いの気づきから学び合う素敵な時間となりました。

社内で先生方と一緒に円対話をするのは、私たちにとても新鮮な体験でしたが、これも枠にとらわれず、子どものために善いと思ったら何処からでも学んでいく先生方の素敵な姿勢によって実現したこと。私たちもそんな姿勢を大切にしていきたいと思えます。

いつしよに笑う

滋賀県草津市で行われた『教善寺落語会』に参加させて頂きました。「一年で一番寒い時期に、みんなで笑って温まる」ということで、2月の初めに行われ、今年で7回目となります。

毎年この会は、地域の方々とお寺の園である「のみち保育園」の先生方が一緒に開催されています。恒例となった会には、地域の方々はもちろん、職員のご家族もいらっやいました。どなたもこの日を心待ちにされていたことが伝わってきます。

「よう来てくれましたよ」「ほんま、ありがとう。」「あんなじょうじいや?」「うまくやっていますか?」…受付で顔を合わせた先生方と地域の方々、そして地域の方同士で冗談を言っって笑い合う中に、ねぎらいや感謝の優しい言葉が飛び交います。



先生方の笑顔が受付でお出迎え



めくり(看板)を準備中...



笑い声で溢れる会場



おもてなしのお茶と「餛飩ちゃん」

休憩時間の幕間でも、参加者同士で話が広がり、笑いが止まりません。集う人たちが皆が、お互いのご贔屓(ひいき)さん。笑い合いながらお互いの近況を伝え合う。見守り合う絆な関係を感じます。

地域の方と先生方が一丸となって創られている落語会には、笑い合う中で人が自然とつながっていく、温かな場間・和が生まれていました。

役割から考える

先日、東京にてギビングツリ主催(以下、G.T)の職域別見守る保育セミナーを開催しました。セミナーには調理師、看護師、事務職員など保育園に勤める様々な職種の先生方が集まりました。セミナーでは前半は職種ごと、後半は各グループに保育士が加わり、それぞれの役割や立場から保育についての意見交換を行いました。

また、G.T東京の職域部会の報告、具体的な事例として東京にある、さくらしんまち保育園様から実践発表をして頂きました。G.T東京の職域部会では、『見守る保育の10カ条』を「食」からどういったことが実践出来るかと研究が重ねられています。

『見守る保育の10カ条』の1条目には「子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成と、そこにおける子ども

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

GT食育部会の成果から

- 藤森代表の基調講演から「見守る保育10カ条」で食の実践例を考える
- ① 自発的で意欲的になる ② 「食」が選べる
- ③ 栄養士や調理員を知る ④ 安全基地としての大人
- ⑤ 異年齢のかかわり ⑥ チーム保育
- ⑦ インクルージョン ⑧ 子ども意思の尊重
- ⑨ 保育者の人権 ⑩ 子どもの人権

食から考える『見守る保育10カ条』

の主体的な活動を大切にする」とあります。これを「食」から考えると、例えば「自発的に自分から食べようとする気持ちになる環境を作ること」となるように同じ理念から一緒に考えたり、自園だったらどうできるかを考えると具体例が出てくると言えます。保育士だけが10カ条から保育を考えるのではなく、それぞれの役割から解釈し、実践していく大切さを改めて感じます。

私たちも、自分たちの役割だったらどんなことができるかを考え、保育に携わっていきたいと思います。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

理念に守られて

私たちは、理念や初心を軸に協力して働くため、月に1度全クルーが集まり、会社の方向性や優先順位、戦略を確認し合う「初心会議」を行っています。この日は、会議に限らず、カグヤの理念・考え方を学ぶため、全員で理念実践をする日でもあります。年初めの会議日には、ちょうどカグヤ一家当主が病に臥せってしまい、当主不在という前代未聞の会議となりました。そんな当日は「モーニング」などの毎



お雑煮のだしは、自分たちで削ったかつおの削り節で!



今年のテーマの漢字一文字を貝に彫り、皆で「磨き初め」です!



氏神様の「新宿熊野神社」へ初詣。来年は皆揃って参拝できますように...

月の実践以外にも、初詣をしたり、お屠蘇やお雑煮をいただいたり、貝の「磨き初め」を行い、それぞれの今年のテーマを共有しました。また、寝込んでいた当主からメールが届いた年頭所感も確認し合い、会議終了後には回復祈願をしたりして... 一家の絆のもと、皆で協力して大切な実践を優先することができ、豊かな1年のスタートになりました。これも理念があつてこそだと改めて感じ、同じ方向を見て働くことの強みを実感する機会になりました。

美しい暮らし

昨年末の島根研修では、石見銀山にありますが他郷阿部家様に宿泊させていただきました。築220年を越える武家屋敷を見事に再生された「暮らす宿」には、古くからの美しい暮らしのものがありました。



手を伸ばしたくなる美しいおむすび



【ゆべしと柿】窓から見える暮らしの風景

特に心を奪われたのが、夕食の支度

をされているスタッフの方が「一つひとつ大事そうに握っていたおむすびです。とても温かい眼差しで、まるで自分の子どもを愛でるかのようによく握っている様子に思わず見とれてしまいました。美しいのだろうと思います。家主の松場登美さんは「美しさや豊かさは普段の暮らしの中にあるもの。美しいと綺麗は違う」と仰います。頭では分かっていたつもりでも、それを目の当たりにすると生き方が変わってしまう程の衝撃でした。手間暇を惜しまず、普段の暮らしを大切に生きる「美しさ」を大事に、豊かなものさしを持って生きていきたいと感じました。

顔が見える仕事

職域別セミナーのお昼のお弁当も、より先生方の身体に良いものはないだろうか、クルーが休日にお弁当屋さんを回り、「いつの時代でも健康に一番留意した食を提供したい」とそんな想いを10年以上守り続ける老舗のお弁当を見つけてくれました。試食をすると美味いだけでなく、料理が大好きなことが伝わってきて、作り手の方のお顔



食は「町」にあり、想いと手間暇が掛けられています。

が浮かんできました。心を込めたお弁当に作り手の思いも含めての商品であるということを感じました。私たちもお客様に想像して頂けるような働き方を目指していきたいです。

一期一会庵

「当たり前ではないこと」

正月から急性扁桃炎を患い久しぶりに長い間体調を崩して寝込んでしまいました。日頃、簡単にできるちょっとした作業がとんでもなくこなすにも大変なことを気にせずやっていたのかとびっくりしました。例えば、歩くこと、坂をのぼること、ご飯を食べること、ゆつたりと眠ること、お風呂に入ること、トイレに行くこと、それらができなかったのです。

当たり前前にできることが急にできなくなると、それまで如何に健康であったことが普通ではないことなのかを感じます。そして同時に病気をすることは感情としては苦しく嫌なことですが、その御蔭で心は当たり前ではない有り難いことにも気づけます。

身体がいつも自分のやりたいことを支えて助けてくれていることや、休んだ時に周りの方々が親身親切にしてくださっていることや、仕事があつて元気に働くことができること、これが如何に有り難いことであるのかを深く実感するのです。

編集後記

今月もご愛読頂き、有難うございます。間もなく卒業シーズン。残り僅かな園生活の中でも、子どもたちが日々の発見に目を輝かせるように、私たちも日常にある「美しさ」を大事に味わっていききたいと思えます。

以前、自然治療の「あうん健康庵」の小松先生から『病はあなたに何を教えてくださるかな?』という言葉がけをいただいた。感銘を受けたことがあります。そう考えてみると病は決して悪いと決めつけるのではなく、「病のチカラ」によって私たちは人生の最も大切なことに気づけるようにも思います。病のチカラで病気が治してくださっているのは、御蔭様の気持ちを忘れない謙虚な心の方かもしれません。今回の病からも自分の暮らし方の反省をし、改めて当たり前ではないことを大切にしたい。こういうことを学び直しました。日々の体験を通してこれは私に何を教えてくださったのか? という謙虚な心をいつも忘れずに精進していきたいと思えます。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月~金 9:00~18:00
(土・日曜祝祭日を除く)